

○ 読むことにおける授業の構想と言葉の思考力(例)

① 授業の構想 ~教材の読解過程の四つの層~

第1層 文字・語句を読む

~文字が読め、語句の一般的な意味が捉えられる。

(活動の例) 個々の生徒による辞書などをを用いた調べ学習。



第2層 文章を読む

~文脈上の意味を理解し、描かれた内容が捉えられる。

(活動の例) 生徒個人の読み取りから小グループ学習などによる意見の共有。



第3層 作者を読む

~作品の主題や作品の背後にある意図が捉えられる。

(活動の例) 小グループの学習から学級全体など大きな集団での意見の共有。



第4層 読者を読む

~自己との関わりにおいて作品が捉えられる。

(活動の例) 学習した内容について自分の意見をまとめ自由に論述する。

② 言葉による思考力の展開(例)

○分析・分解する力

事柄や現象の構成要素や変化の過程を分けて(分解)、言葉や文が成立している組織や構造や、現象の発生した前提条件を明らかにする力。

○連結し、関係を認識する力

人やものの関係の在り方や、時間の一貫性などをつなげて探る力。

○構想し企画する力

事象の全体を統括し、まとめて考え、一般化したり体系化したりする力。

○想像する力

文章中での状況を実感し、部分から全体を構想したり、表面から内面や深層を探ったりできる力。

○転移する力

様々な意見を聞き自分のもつ視点や立場を変えたり、違った条件を設定したりできる力。

新学習指導要領においては、「思考、判断力、表現力」の中に A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むことの育成の充実が示され、C 読むこと の指導事項については、次のように構成されています。

○構造と内容の把握…叙述に基づいて、文章がどのような構造になっているか、どのような内容が書かれているかを把握すること示している。

○精査・解釈…構成や叙述などに基づいて、文章の内容や形式について、精査・解釈することを示している。

○考えの形成、共有…文章を読んで理解したことなどに基づいて、自分の考えを形成することを示している。

☆「読み取り力を育てる4の力」(例)

(1) 本文を抜き出す力

問いに対し、その問いが問題とする箇所を本文から抜き出して答える力であり、「情報の抽出」に相当する。日常の国語科の授業などにおいて求められるものであり、どの発達段階や学年でも学習の基礎となる。

○物語…「なぜ」という問いに対して、原因となる行動や感情が描写された箇所を本文から引用できる。

○説明的文章…「なぜ」という問いに対して、理由や根拠となる箇所を本文から引用できる。

(2) 構造を捉える力

文章に明示された情報のまとまりやつながりを理解する力であり、段落や場面を単位として構造の理解と、文章全体の構造の理解とに分けられる。段落や場面の構造では出来事に継起や、文や形式段落の連続を一つの場面や大きな意味段落のまとまりとして捉えた上で、その中心を把握する。

○物語…発端や問題解決、結末といった物語構造を捉える。

○説明的文章…序論・本論・結論や、仮設・実験・結果といった構成や展開を捉える。

(3) 推論し結び付ける力

文章に明示的に書かれていることを読み手の知識と結びつけ、書かれていないことまで推理して意味を理解する力であり、文章を読む過程で重要な役割を果たす。補って推論する力と前向きに推理する力が挙げられる。

○物語…人物の行動の動機を考える、心情を想像する、人物の行動や情景描写の持つ象徴的な意味を考える。

○説明的文章…根拠から主張を導く、仮説や前提を補って理解する、筆者の結論から発展的なことを予想し他の事例を挙げる。

(4) 文章表現・内容を評価する力

文章について、その効果や有効性、意義について読み手が価値判断を行う力であり、文章の特徴的な表現や構成の効果について価値判断を行う力と、文章の主題や問題提起について読み手が価値判断を行う力が挙げられる。

○物語…擬音語、擬声語の効果や結末の効果、人物の行動や人物像、主題に対して評価する。

○説明的文章…問題設定と結論、根拠と主張のつながりなどについて吟味し判断する、筆者の主張や問題提起に対して、根拠から主張を導く、仮説や前提を補う、説明や結論から他の事例を挙げ、発展的に自分の考えを述べる。